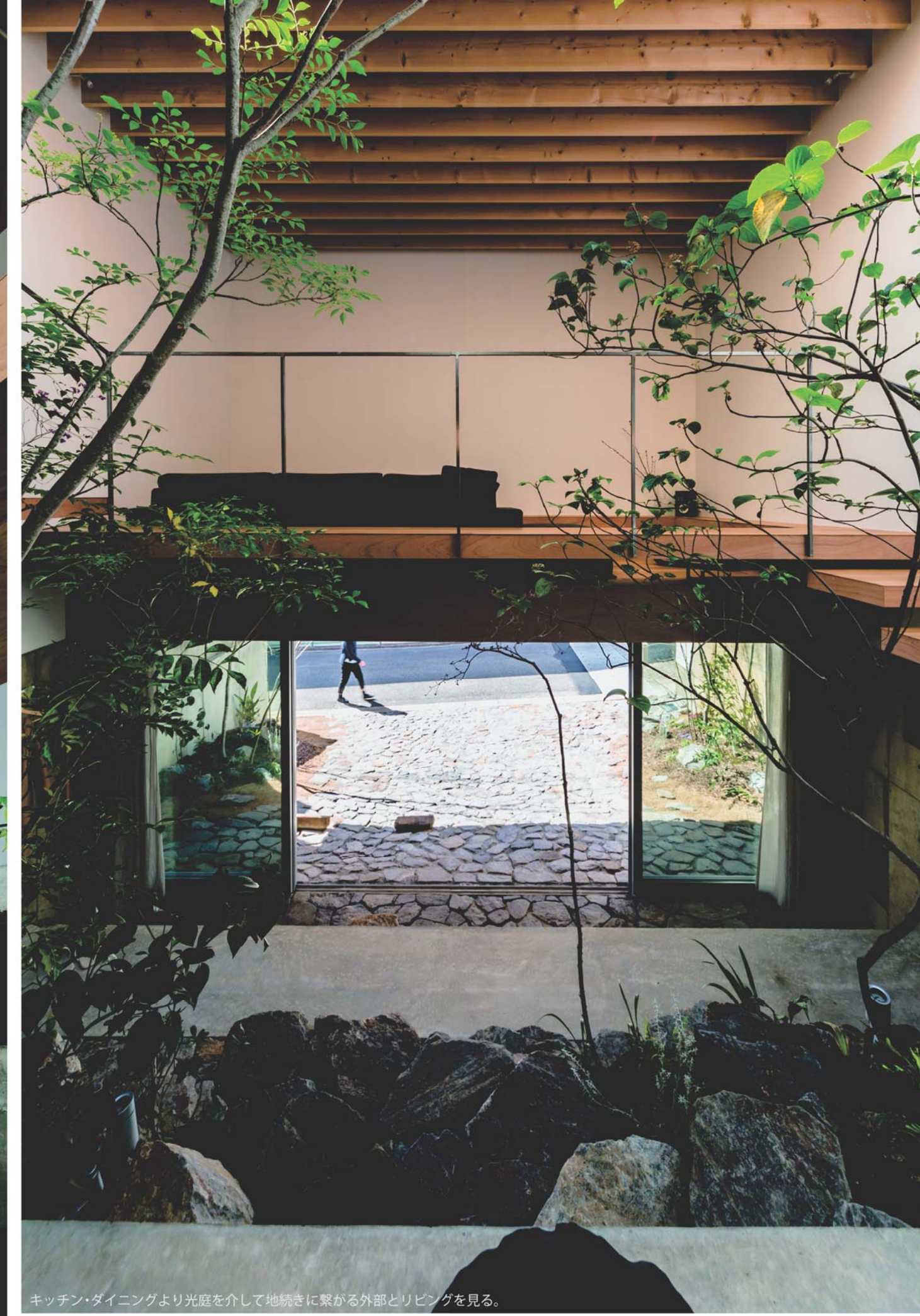




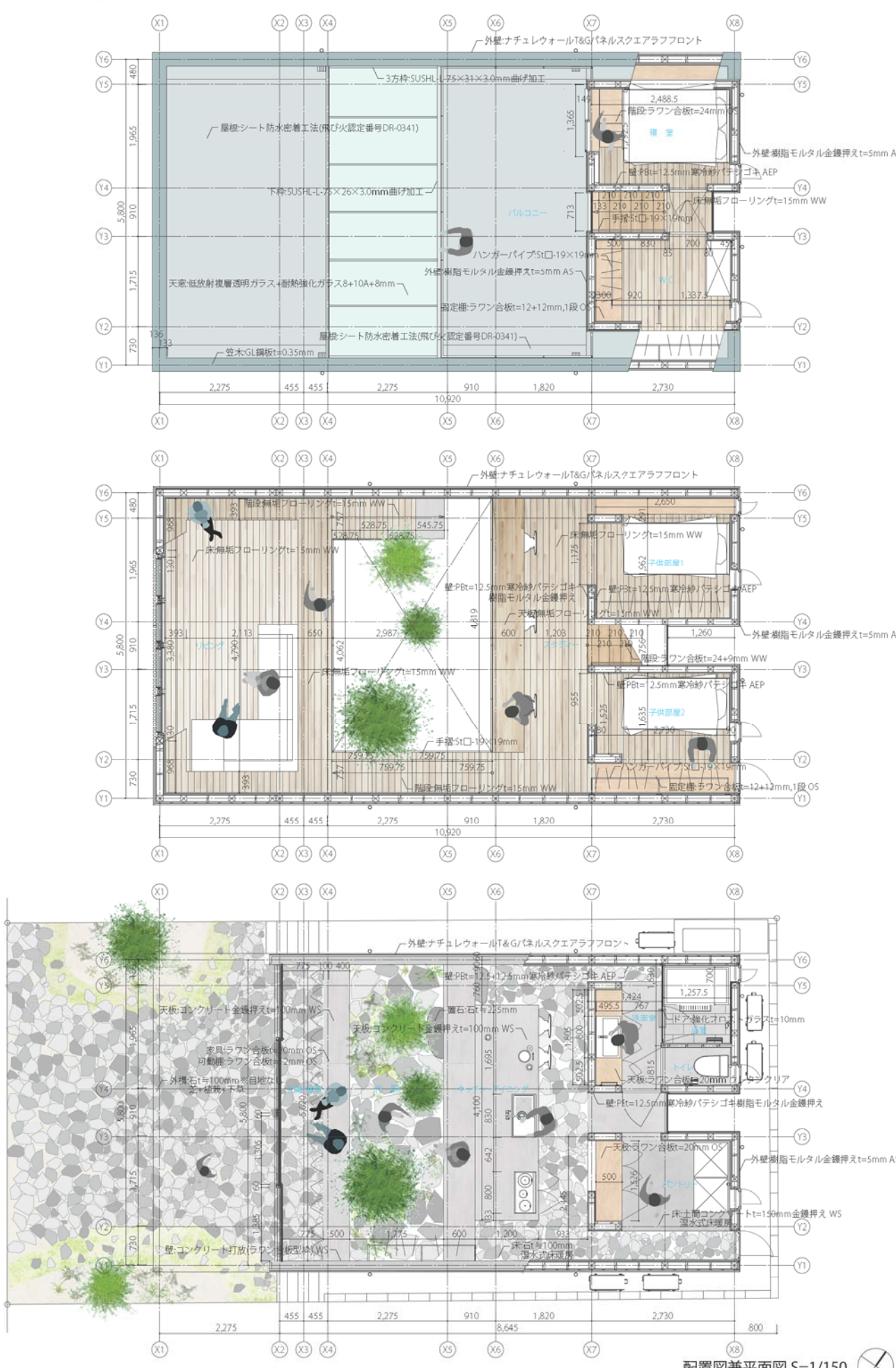
光庭の棲

夫婦と第二子のための住まいである。敷地は、地形の起伏が激しい地域の住宅地にある。隣家との距離感は近く、狭い前面道路を挟んだ向かいも体育館が建ち並び、採光・通風・プライバシーの配慮が不可欠な都市型環境であった。周辺の家々は駐車場の確保に伴い、庭とまでは呼べないようなスキマを残る空地をわずかながら緑化し、隣家との相互関係は地形の起伏によって程良くズレ、それぞれ都市中の暮らしを確立しているのがユークに感じた。われわれは、この地形の起伏と周辺の家々の状況を受け入れながら、内外の領域や内隣の領域を曖昧な関係性によって結びつけ、建築というフィルターを介すことで、豊かな住環境を獲得できるのではないかと考えた。

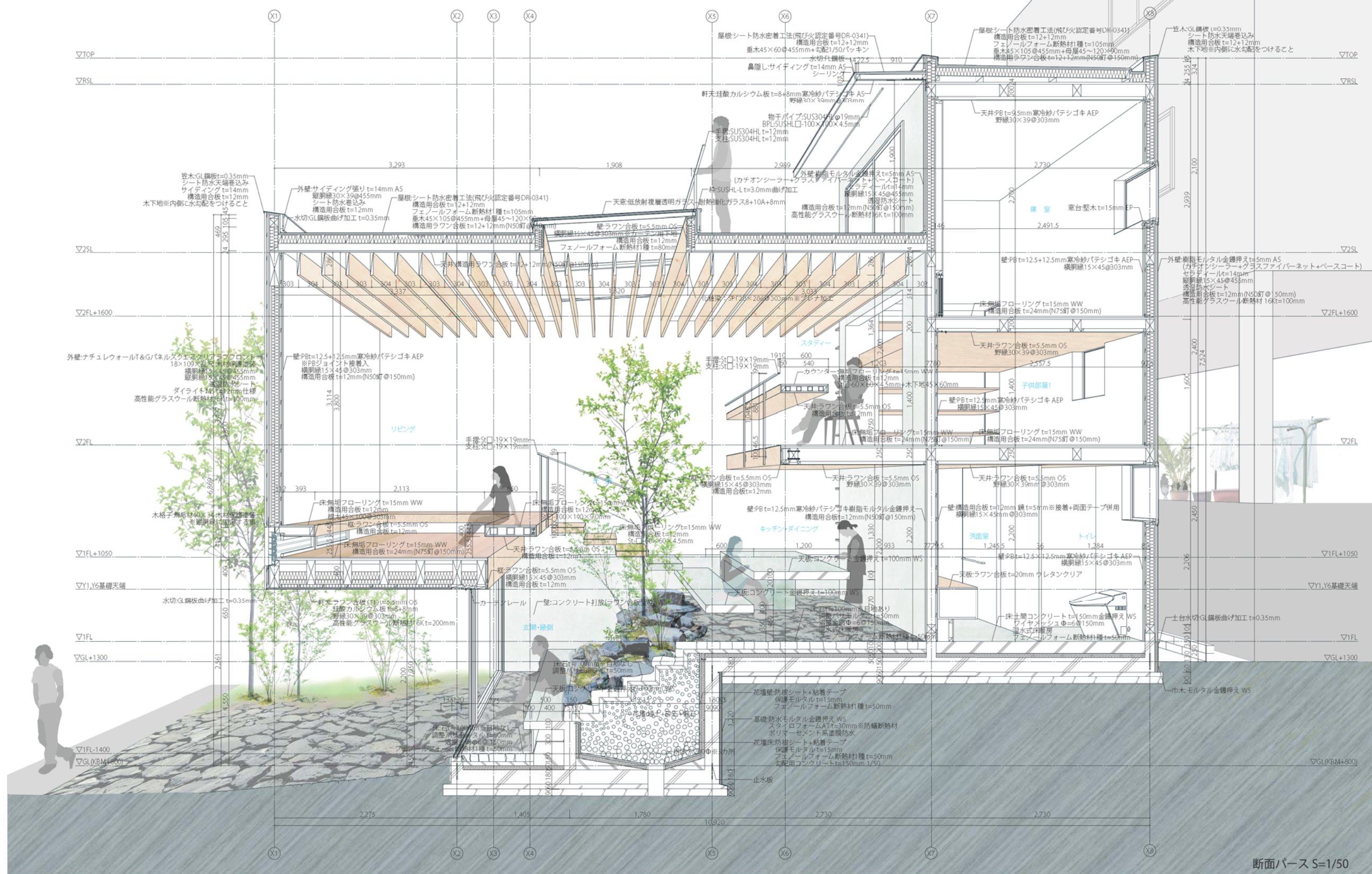
そこで、前面道路より奥に向かって2mほど段差のある地形を内部空間にまで延長させ、引き込まれた外部要素は中庭のような位置づけのもの、そこを取り巻くように生まれた高低差によってスキップフロアを構成し、さらに中庭の上部には大きなトップライを設け、空間全体で光を享受する。この光庭を中心とした空間は、内外の領域や体感に曖昧性が生まれることによって、生活として機能中心のモノゴトがなされるのではなく、人や環境が日々関わり合う状況が生まれる。また、プライベートを集約した棟屋に対しては、生活と遊びを分け、スレを介して生活と遊びがはみ出し合い、抜けをすることで空間がより緩和し、周辺環境に呼応する。このような関係性は、採光・通風といった自然環境にも同様にたらし、光庭に人が寄り添い、留まる居場所がつけられる。

地方は敷地や自然環境による制約が少なく、必然性が豊かさを引き出したが、都市に比べればはるかに多くなる制約は、数多くの要素を人と環境に結びつけて整理していくことで、関係性が豊かさを生み出す。光庭の棲も住み手と共に豊かさを展開していくことを期待したい。

所在地：愛知県名古屋市
主要用途：専用住宅
家族構成：夫婦
建築面積：62.92㎡
延床面積：97.96㎡
敷地面積：105.98㎡
最高高さ：8034mm
構造規模：木造2階建
地域地区：第2種中高層住宅専用地域 準防火地域



配置図兼平面図 S=1/150



断面バース S=1/50



リビングよりキッチン・ダイニングとプライベートを分けた二つの棟屋を見通す。スキマやスレが抜けをつくる。



光庭よりキッチン・ダイニングを見る。



プライベート部分のスキマやスレから生活や機能がはみ出し様子。



全面道路より見る外観正面。光庭に向かって地続きに導かれるアプローチ。